

2011 年度

愛媛大学国際連携推進機構年報

序 文

はじめに	1
1 組織・スタッフ	4
2 活動状況	5
2-1 講演会, 国際シンポジウムなど	
(1) 熱帯農業に関するSUIJIコンソーシアム2011愛媛大会	
(2) 国際フォーラム「ネパールの開発と観光年2011の推進をめざして」	
(3) 国際教育フォーラム「共同学位制度導入に関わる日本の動向と愛媛大学の取組の現状」	
(4) 教育改革セミナー「日米の高等教育の現状と課題～アクティブ・ラーニングを中心に～」	
2-2 愛媛大学訪問	8
(1) 台湾国立高雄第一科技大学の陳振遠学長一行来学	
(2) 駐モザンビーク共和国日本国大使館特命全権大使ら来学	
(3) 中国・桂林理工大学から王贛華副学長一行が来学	
(4) アリ・モザンビーク共和国首相来訪	
(5) 韓山師範学院の林倫倫学長一行が来学	
2-3 相手機関訪問	10
(1) 台湾高雄市政府及び大学等訪問	
(2) 中華人民共和国四川大学と学術交流協定を締結	
(3) 柳澤康信学長らが中国中央民族大学創立60周年記念式典出席	
(4) 細川洋治国際連携推進機構教授(副機構長)が中国・韓山師範学院客員教授に就任	
(5) 愛媛大学DanceAZ. とメディアサポーターズ映像部が中国・上海師範大学国際芸術祭で公演	
2-4 第8回留学生日本語スピーチコンテスト in 愛媛2011	14
2-5 その他(国際交流関係)	15
(1) 国際連合大学私費留学生育英資金優秀者表彰式実施	
(2) 第1回海外安全講習会&留学支援制度説明会開催	
(3) 中学生の修学旅行グループが留学生と俳句を楽しむ	
(4) 中華人民共和国駐大阪総領事館教育室から感謝状	
(5) 韓国大学生訪日研修団と本学学生との交流会開催	
(6) 震災後も愛媛で頑張る留学生の生の声を掲載	
(7) 外務省外交講座:「我が国の国際協力について」実施	
(8) 海外留学生安全対策協議会(JCSOS)危機管理講座開催	
(9) 「日本語教師を目指す学生のためのOJTプログラム」第1回成果報告会開催	
(10) 留学生友好の森づくり植樹を実施	
(11) 国際連合大学私費留学生育英資金優秀者表彰式を実施	
3 短期海外研修プログラム	20
3-1 短期海外研修プログラム(派遣)	
(1) 韓国文化研修2011	
(2) 短期韓国語・韓国文化研修	

(3) 日本語教師を目指す学生のための OJT プログラム (トルコ)	
3-2 短期海外研修プログラム (受入)	2 1
(1) 愛媛大学 愛アイプログラム「じっくり日本研修」 (蔚山大学校研修団) 開講式実施	
(2) 愛アイプログラム「インターンシップから学ぶ日系企業文化・風土」 (韓山師範学院)	
4 留学生各種プログラム	2 2
(1) 留学生ホームステイを北宇和郡で実施	
(2) 留学生ホームステイを新居浜市で実施	
(3) 愛媛大学学生国際交流協力事業会 (AINECS) 理事会・新入留学生歓迎会開催	
(4) 平成23年度前学期日本語予備教育コース修了式開催	
(5) 平成23年度外国人留学生実地見学旅行実施	
(6) 平成23年度アイネックス外国人留学生送別パーティ開催	
(7) 平成23年度後学期日本語予備教育コース修了式を実施	
5 グローバル人材育成プログラム	2 6
(1) 平成23年度「世界と協働できるグローバル人材育成プログラム」開講式挙	
(2) 平成23年度留学生インターンシップ報告会を開催	
(3) 「アジア人財資金構想」及び「世界と協働できるグローバル人材育成プログラム」平	
成 23 年度修了式実施	
6 第2回中国祭り与中国少数民族伝統衣装展開催	2 7
7 研究活動	2 7
8 管理運営	2 9
9 人事異動	3 3
10 資料	3 4
外国人留学生受入状況	
国際交流協定締結状況	
研究者の海外派遣プログラム	
外部資金獲得状況	
国際連携促進事業採択課題	
愛媛大学国際連携推進機構規則	
愛媛大学国際連携企画室規程	
愛媛大学国際教育支援センター規程	
愛媛大学アジア・アフリカ交流センター規程	
愛媛大学国際連携推進機構管理運営委員会規程	
愛媛大学国際連携促進事業実施要項	

1 組織・スタッフ

機構長	矢田部 龍一	
副機構長	細川 洋治	
副機構長	清水 史	
国際連携企画室長（併）	岡村 未対	
国際教育支援センター長（併）	清水 史	
教授	陳 捷	
准教授	Ruth Vergin	
准教授	高橋 志野	
准教授	村上 和弘	
准教授	伊月 知子	
特命准教授	白石 裕司	
アジア・アフリカ交流センター長	遅澤 克也	
准教授	小林 修	
日本語非常勤講師	石橋 容子	菅野 真紀子
	木藤 隆雄	田中 喜美代
	築地 伸美	土井 美智子
	林 智子	藤田 紀代子
部長	上甲 克和	
課長	濱田 桂子	
副課長	兒玉 健志	
総務チームリーダー	田村 逸希	
総務チーム	松本 かおり	
国際企画チームリーダー	小玉 豊美	
国際企画チーム	森田 明子	
学生交流チームリーダー	和氣家 孝夫	
学生交流チーム	松田 由紀	園山 延枝
	上松 陽子	
（国際交流会館担当）	中島 俊	
キャリアコンサルタントリーダー（特命教授）	荒木 孝雄	
キャリアコンサルタント（客員教授）	池見 祐輔	
キャリアコンサルタント	田村 七重	

（平成 24 年 1 月 1 日現在）

2 活動状況

2-1 講演会、国際シンポジウムなど

(1) 熱帯農業に関するSUIJIコンソーシアム2011愛媛大会

日時：平成23年7月23日(土)～25日(月)

会場：南加記念ホール・校友会館 サロン・大和屋

参加人数：200人

概要：7月23日(土)から25日(月)にかけて、本学南加記念ホールなどを会場に“The 2nd Rector Forum and SUIJI Seminar 2011 in Ehime”を開催し、「愛媛宣言」を採択しました。熱帯農業に関するSUIJI(Six

University Initiative Japan Indonesia)コンソー

シアムは、インドネシアの拠点大学であるガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学及び四国の愛媛大学、香川大学、高知大学の6大学が参加して、平成23年3月に設立されました。それまでの個々の大学間での連携協力をベースとして、それぞれの大学が持つ教育研究を有機的に連携させることにより、熱帯地域の農業発展及び生物資源の保全に貢献し、ひいては地球規模の環境問題に貢献することを設立趣旨としています。今回、6大学の学長が参加し、本学でSUIJIコンソーシアムの第1回運営協議会を開催するとともに、セミナーを開催しました。



7月24日(日)午前から南加記念ホールで開催された熱帯農業に関するSUIJIセミナーでは、オープニングセレモニーとして附属高校の生徒達がアングルン(インドネシアの竹製の打楽器)演奏を行い、柳澤康信学長による挨拶に続いて各大学の学長らがそれぞれの大学の国際戦略について発表を行いました。また、本学連合農学研究科の逸見彰男研究科長から、人材育成の実績について発表がありました。

午後は、「コンソーシアムを基盤にした研究教育分野の将来の夢」と題して、コンソーシアム参加大学の研究者12人が、熱帯農業関連分野の今後の取組みについてプレゼンテーションを行い、続いて、特別ゲストのインドネシア教育省のSupriadi Rustad(スプリアディ ルスタッド)人材資源開発局長及び文部科学省高等教育局の義本博司高等教育企画課長から、「SUIJIに期待すること」と題してスピーチをいただき、セミナーの最後には、SUIJIコンソーシアムの今後の取組を盛り込んだ「愛媛宣言」を採択し、各大学の学長が宣言書に署名しました。

今後、SUIJIコンソーシアムによる教育・研究交流がさらに発展し、東アジアにおける大学間交流の発展に貢献することが期待されます。



(2) 国際フォーラム「ネパールの開発と観光年2011の推進をめざして」

日時：平成23年10月11日(火)

場所：南加記念ホール・校友会館 サロン・大和屋

参加人数：200人

概要：ネパール元首相らを招いて国際フォーラムを開催しました。

ヒマラヤに抱かれた東洋文明発祥の地(ブッダの生誕地)であるネパールは2011年を国際観光

年と定めてネパール観光の推進を図っています。本フォーラムは、日本の数カ所で開催される観光フォーラムの一つとして、愛媛大学国際連携推進機構が開催しました。

フォーラムの冒頭では、矢田部龍一理事・副学長から、今後ヒマラヤ山脈を越えて、東洋と西洋の文化が出会い新しい時代圏を開くであろうネパールの元首相をお招きして、愛媛の地でフォーラム開催するのは極めて意義深いことであると開会挨拶があり、続いてネパール元首相のマダブ・クマル・ネパール氏（首相在任：2009年5月～2011年2月）による「間近から見たネパールの政情問題と今後の開発課題」を題とした基調講演が行われ、山国であるネパールでは、政情不安の解消、新憲法制定などさまざまな問題があるが、発展著しいインド、中国に歩調を合わせて開発を進めていくことが大きな課題となっていることが述べられ、併せて、ネパールの主要課題である防災研究への愛媛大学の取組に対する謝意が表明されました。



ネパール前文部大臣ガンガラ・トゥラドハル氏からは、教育の現状や課題についての特別講演が、また、駐日ネパール大使館ドゥルガ・スベディ公使からは、ネパールの観光年の推進に関する講演が行われました。公演終了後にネパール元首相らと200人以上の来場者との間で行われた質疑応答では、治安や環境問題などに関して次々と質問があり、来場者から質問や意見を受けたネパール元首相から、ネパールに対する強い愛情を感じたとのコメントがあり、最後に三木哲郎プロテオ医学研究センター

一長の挨拶でフォーラムを締めくくりました。

夜は、市内のホテルに会場を移し、ネパール元首相を囲んでの歓迎会を開催しました。歓迎会では、現在ネパールにおいて支援活動などを展開している愛媛県内の団体や個人に対し、ネパール政府を代表して駐日ネパール大使館から感謝状の贈呈式が行われました。ここでは、長年にわたってネパールの大学と教育、学生交流や共同研究を精力的に行ってきたとして愛媛大学国際連携推進機構が、また、ネパールとの友好関係構築に、個人として多大な貢献をしてきたとして矢田部理事・副学長及び理工学研究科ネトラ・バンダリ助教が表彰を受けました。ネパールに関心を持つ多くの方々が集い情報を交換する良い機会となりました。

（3）国際教育フォーラム「共同学位制度導入に関わる日本の動向と愛媛大学の取組の現状」

日時：平成24年1月30日（月）

場所：校友会館サロン

参加人数：40人

概要：今、国際的に関心が高まっているダブル・ディグリーやジョイント・ディグリーについて、教育・学生支援機構と国際連携推進機構の主催により、フォーラムを開催しました。

フォーラムの冒頭では、文部科学省で学位制度を所管する高等教育局国際企画室国際企画専門官の佐藤邦明氏を招き、「組織的・継続的な教育連携(DD・JD)の取組の現状と課題」と題して講演いただきました。佐藤専門官からはダブル・ディグリーやジョイント・ディグリーを巡る現行の制度、国内や海外の大学における取組状況など



についての詳細な説明がありました。また、現行制度との関係や質保証の観点から生じる問題点などについても言及し、講演の後には来聴者との活発な質疑が行われました。

引き続き愛媛大学の取組について、農学部の林和男教授から「SUIJI共同教育プログラムへの取組」、大学院理工学研究科榊原正幸教授から「地球科学分野におけるバンドン工科大学とのサンドイッチプログラムの導入」と題した報告がありました。



会場となった校友会館のサロンには各学部で共同学位プログラムに取り組む教員らの他、インドネシアからの留学生や学務関係の事務担当者など40人余りが参加し、テーマへの関心の高さをうかがわせました。

【プログラム】

開会挨拶 教育・学生支援機構長 弓削俊洋

講演

1 共同学位制度に関わる文部科学省ならびに大学の取組の現状と課題

「組織的・継続的な教育連携(DD・JD)の取組の現状と課題」

文部科学省高等教育局国際企画室国際企画専門官 佐藤邦明

2 愛媛大学の取組報告

「SUIJI共同教育プログラムへの取組」

農学部教授 林 和男

「地球科学分野におけるバンドン工科大学とのサンドイッチプログラムの導入」

大学院理工学研究科教授 榊原正幸

閉会挨拶 国際連携推進機構長 矢田部龍一

(4) 教育改革セミナー「日米の高等教育の現状と課題～アクティブ・ラーニングを中心に～」

日時：平成24年3月22日(木)

場所：校友会館サロン

参加人数：40人

概要：アメリカ合衆国から教員15人が参加し、本学の教員と日米の教育の現状や課題に関する情報交換を行いました。

このセミナーは、日米における高等教育の現状と課題を認識し、なかでも近年注目されている学習・教育スタイルである「アクティブ・ラーニング」を学ぶことを目的に開催しました。



今回は、アメリカのCollege of Lake County(以下「CLC」)から9人、Joliet Junior Collegeから6人の教員が参加し、本学の教員と共に、教育の現状と課題に関する講演を始め、米国教員による授業の体験受講やお互いの授業を見直すグループディスカッションなどを行いました。本学とCLC

は、平成22年8月に、国際連携推進機構が窓口となって、教職員・学生の交流、教育プログラムや授業の開発協力、教



員の専門的能力の開発などを内容とする学術交流協定を締結しました。今回のセミナーはこの協定に基づく取り組みのひとつですが、5月にはCLCの教員が学生26人と共に来日して本学で授業を行い、本学学生も参加するなど、今後さらに活発な交流を展開する予定です。

■教育改革セミナー「日米の高等教育の現状と課題～アクティブ・ラーニングを中心に～」

10:30 開会挨拶 国際連携推進機構 細川洋治副機構長

10:40 講演「日本における高等教育の現状と課題」 教育企画室 佐藤浩章副室長

12:00 休憩

13:00 パネル・ディスカッション「アメリカにおける高等教育の現状と課題」

College of Lake CountyとJoliet Collegeの教員

14:00 グループ・ディスカッション1

15:00 小休憩

15:15 グループ・ディスカッション2

16:30 閉会

2-2 愛媛大学訪問

(1) 台湾国立高雄第一科技大学の陳振遠学長一行来学

日時：平成23年7月6日（水）

概要：台湾・高雄市の高雄第一科技大学から陳振遠学長、許宏徳一般教養センター長、邱栄金秘書室長が本学を訪れ、柳澤康信学長を表敬訪問するとともに、本学との学術交流協定を締結しました。

国立高雄第一科技大学は、台湾南部の高雄市に位置し、学生数は約7000人、5学部、5学科及び27のセンターを擁する高雄を代表する理系・技術系の国立大学です。

高雄第一科技大学と本学との交流は、平成22年11月に、

本学の矢田部龍一理事・副学長、安原英明理工学研究科准教授及び鳥居謙一防災情報研究センター長(当時)らが台湾地震現地調査のために同大学を訪問した際、大学間交流の可能性についても意見交換を行ったことに端を発しています。平成23年1月には、高雄第一科技大学の邱秘書室長及び慮之偉准教授と本学の安原准教授との間で両校の交流可能性の検討が始まり、特に語学短期留学や工学部間での交流などについて協議を行いました。



本年4月には柳澤康信学長、矢田部理事・副学長、清水史国際連携推進機構副機構長、陳捷国際連携推進機構教授、鳥居防災情報研究センター長、安原准教授及び濱田桂子国際連携課長らが同大学を訪問し、陳学長らと防災に関する共同研究の実施等将来的交流について協議を行いました。

7月6日(水)の学術交流協定調印式では、関係者が見守る中、両学長が協定書に署名し、固い握手を交わしました。

来年度から学生交流がスタートする予定になっているほか、教員の交流なども具体化に向けて協議が進められており、今後の成果が期待されます。

(2) 駐モザンビーク共和国日本国大使館特命全権大使ら来学

日時：平成23年10月5日(水)

概要：駐モザンビーク共和国日本国大使館橋本栄治特命全権大使と独立行政法人国際協力機構

(JICA) 四国支部の長澤一秀支部長が柳澤康信学長を表敬訪問し、今後の連携などについて懇談しました。

本学は防災やESD(持続可能な開発のための教育)などの分野でJICA等の国際機関と連携してモザンビークへの支援を行っております。橋本氏が本年9月1日付けで駐モザンビーク共和国日本国大使館特命全権大使に就任したことに伴い、長澤氏と共に本学を訪れました。モザンビーク共和国は本学の国際戦略における拠点国の一つとなっており、同国のルリオ大学とは平成21年3月に学術交流協定を締結しました。

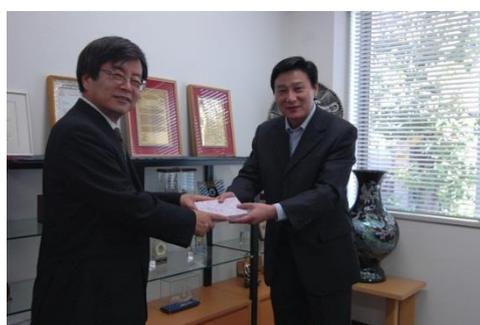
また、平成22年7月には本学において「アフリカ・モザンビーク&愛媛大学国際連携フォーラム～高等教育の連携を通じた持続的発展～」を開催するなど、学術面での交流にも活発に取り組んでいます。

今回の訪問を機に、今後益々交流が進展することが期待されます。

(3) 中国・桂林理工大学から王贛華副学長一行が来学

日時：平成23年11月4日(金)

概要：桂林理工大学から王副学長ら一行5人が、国際連携推進機構を表敬訪問するとともに、大学院理工学研究科工学系において、今後の交流について協議を行いました。中国の桂林理工大学は1956年の創立で、学生数が23,000人、工学を主にして理学、観光学、文学、経済学、法律学、農学等の学部・研究科を有する総合大学です。



11月4日(金)の午前に、王副学長、程道品大学院学生部長、熊英学部学生部長、黄文龍総務部長及び全克林国際交流センター副処長が、国際連携推進機構長の矢田部龍一理事・副学長を表敬訪問し、細川洋治国際連携推進機構副機構長及び陳捷国際連携推進機構教授らと大学の概要等についての情報交換するとともに、今後の交流について意見を交わしました。



午後は愛大ミュージアムを視察した後、大学院理工学研究科工学系において、村上研二工学系長、曾我部雄二評議員、大賀水田生副工学系長、渡邊政広工学系長特別補佐、藤井雅治工学系長特別補佐及び田鍋廣工学部事務課長らと、今後の研究交流や学生交流について意見交換を行いました。

今後、本学との学術交流協定の締結に向けて協議を重ねることとなっています。

(4) アリ・モザンビーク共和国首相来訪

日時：平成24年2月24日(金)

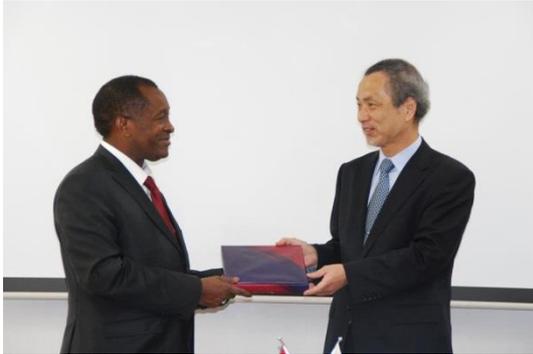
場所：愛大ミュージアム

概要：モザンビーク共和国のアイレス・ボニファシオ・バティスタ・アリ首相が、訪日の一環として、愛媛大学を訪問されました。

平成24年2月24日(金)午前、首相御一行をお迎えして行った交流会において、柳澤康信学長がアリ首相に歓迎の挨拶を述べるとともに、農業や沿岸防災関係を通じた本学のモザンビーク支援の取組や2009年に学術交流協定を締結したモザンビークのルリオ大学との交流の概要などについて説明しました。



これに対してアリ首相は、これまでの取組に対する謝意を表明するとともに今後の協力への期待を述べられました。



アリ首相は、2008年にも当時の教育文化大臣として本学を訪問されたことがあり、今回の来訪を契機に益々モザンビークとの交流が深まることが期待されます。

(5) 韓山師範学院の林倫倫学長一行が来学

日時：平成24年3月18日（日）～19日（月）

概要：中国・広東省の韓山師範学院と本学は、平成21年9月に学術交流協定を締結して以来、研究者、学生の交流を活発に展開しており、同学院からの留学生を受け入れて実施する短期プログラムは今回で3回目になりました。

今回本学を訪れたのは、韓山師範学院の林学長、王革事務局長、趙松元中文系主任、陳潔榮外語系主任、吳云影化学系副主任の5人です。



本学では、3月5日(月)から「愛アイプログラム-インターンシップから学ぶ日系企業文化・風土-」を実施し、韓山師範学院の学生18人が参加していました。3月18日(日)、林学長らは、2週間にわたって「ビジネス日本語」の授業と「インターンシップ」研修に取り組んだ学生の修了式と成果報告会に出席し、修了生に励ましの言葉を贈りました。一行は、3月19日(月)に、柳澤康信学長を表敬訪問し、今後の学術交流などについての意見交換を行ったほか、本学関係者と、来年度の短期プログラムに向け、Eラーニングの活用などについて、打合せを行いました。

2-3 相手機関訪問

(1) 台湾高雄市政府及び大学等訪問

日時：平成23年4月27日(水)～5月2日(月)

概要：柳澤学長一行が台湾の高雄市政府及び大学等を訪問し、国立高雄大学と大学間学術交流協定を締結しました。

一行は、柳澤学長、矢田部龍一理事・副学長、清水史国際連携推進機構副機構長、陳捷国際連携推進機構教授、鳥居謙一防災情報研究センター長、安原英明理工学研究科准教授及び濱田桂子国際連携課長ほか2人です。

4月28日（木）は、午後から高雄市政府を訪問し、議会開催で不在の市長等に代わって高雄市政府公教人力発展局の呉英明前局長（現高雄市立空中大学学長）及び同市政府国際科の黄啓峰科長等と将来的な地域間交流に関する意見交換を行いました。



29日（金）は、国立高雄第一科技大学を表敬訪問し、陳振遠学長等と防災に関する共同研究及び将来的交流について協議を行いました。また工学部において開催した安原准教授の講演会には教職員はじめ約60人の学生が出席し、好評を博しました。

午後からは協定校である義守大学を表敬訪問し、傅勝利学長及び本学から留学中の学生と懇談するとともに、日本語学科の授業等を視察しました。

30日（土）は国立高雄大学創立11周年記念式典に参列し、本学との学術交流協定を締結したほか、今後の学生交流や工学系分野の連携構築に関する具体的な協議を行いました。協定締結により、学術面の交流だけでなく、両大学の相互理解や学生の勉学意欲の向上において、大きな成果が期待されます。



（2）中華人民共和国四川大学と学術交流協定を締結

日時：平成23年5月30日（月）～6月3日（金）

概要：柳澤康信学長一行が中国四川省成都市を訪問して基調講演を行うとともに、四川大学と学術交流協定を締結しました。

また、村上恭通東アジア古代鉄文化研究センター長（四川大学客員教授）が成都博物院並びに四川大学歴史文化学院から表彰されました。

一行は、柳澤学長、矢田部龍一理事・副学長、入船徹男地球深部ダイナミクス研究センター長、黒木幹夫法文学部人文系担当学部長、清水史国際連携推進機構副機構長、村上恭通東アジア古代鉄文化研究センター長、陳捷国際連携推進機構教授ほか総勢11人です。

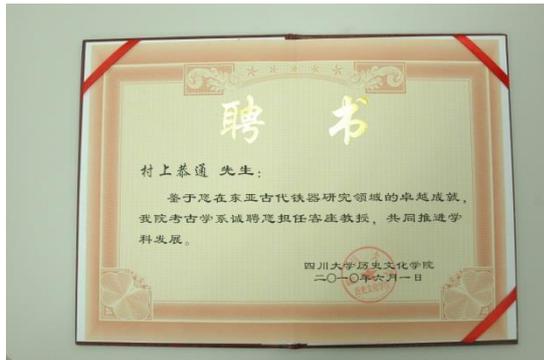
31日（火）は、四川大学の教職員約100人を対象として、矢田部理事・副学長、入船地球深部ダイナミクス研究センター長、村上東アジア古代鉄文化研究センター長が基調講演を行い、満席



の会場からは質問が多数寄せられ、盛況な講演会となりました。

また、災後重建及び管理学院、原子分子物理研究所(H21.5.15地球深部ダイナミクス研究センターと部局間協定締結)、歴史文化学院等を視察し、関係者と意見交換を行った後、四川大学謝和平学長、石堅副学長他関係者出席の下、学术交流協定の調印式に臨みました。

四川大学は、学生数約6万人、32学部を擁する中国政府教育部直属の全国重点大学であり、「211プロジェクト」「985プロジェクト」の認定を受けています。協定締結により、学術面のみならず、両国間の相互理解や学生の勉学意欲の向上において、大きな効果が得られるものと期待されます。



1日(水)は、地球深部ダイナミクス研究センターの入船センター長及び雷力COE研究員が、四川大学原子分子物理研究所においてセミナー及び研究打合せを行い、その後、一行は成都市にある金沙遺跡博物館を視察し、四川省文物局長、成都文物考古研究所長等を表敬訪問しました。両長をはじめとする研究員との意見交換の後、これまでの業績を高く評価された村上東アジア古代鉄文化研究センター長が、成都博物院並びに四川大学歴史文化学院から表彰されました。

なお、村上東アジア古代鉄文化研究センター長は、四川大学歴史文化学院において外国人で初めてとなる客員教授にも就任しています。

今回の訪問によって、今後一層の研究交流が期待されます。

※「211プロジェクト」…21世紀に向けて100余の大学を重点的に発展させるプロジェクト

※「985プロジェクト」…世界レベルの大学建設のための重点政策プロジェクト

(3) 柳澤康信学長らが中国中央民族大学創立60周年記念式典出席

日時：平成23年6月17日(金)～18日(土)

概要：柳澤学長、国際連携推進機構清水史副機構長、同機構陳捷教授、国際連携支援部上甲克和部長及び国際連携課児玉健志副課長が中国・北京の中央民族大学で開催された創立60周年記念式典に出席し、柳澤学長が外国の協定大学を代表して祝辞を述べました。

中国の中央民族大学と本学は昨年6月17日に学术交流協定を締結し、今回の訪問は、このたび中央民族大学が創立60周年を迎え、協定校として記念式典に招かれたものです。



6月17日(金)に、北京市内のホテルで行われたウェルカムディナーの席上、柳澤学長が外国の協定校を代表して祝辞を述べました。挨拶では、さきの東日本大震災の際、中国から受けた救援活動や温家宝首相の被災地訪問などに対する謝辞を述べ、また、中国のことわざの引用(中国語)もあって、会場を埋めた500人を超える出席者から大きな拍手が沸き起こりました。

6月18日(土)には午前中に大学構内の大講堂で執

り行われた開学記念式典に出席し、午後には中央民族大学の校史館や先端研究を行っている研究室の視察を行いました。同日夜には北京市の首都体育館で観客1万人を集めて開学記念演奏会が催され、在学生や卒業生などによる歌舞が披露され、最後は様々な民族衣装をまとった舞踏学院の学生達が同窓生でもある人気歌手とともに舞台上に登場し、華やかなフィナーレを繰り広げて中国の全ての少数民族出身者が集う大学を印象づけるものとなりました。

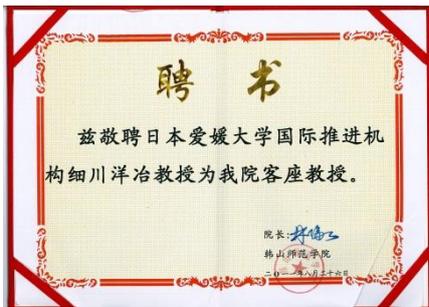
また、今秋、中央民族大学から衣装の提供を受けて本学ミュージアムで開催する民族衣装展の打合せも行い、今後益々活発な交流が期待される訪問となりました。

(4) 細川洋治国際連携推進機構教授(副機構長)が中国・韓山師範学院客員教授に就任

日時：平成23年8月30日(火)

概要：このたび、細川洋治副機構長に中国の韓山師範学院から客員教授の称号が授与され、平成23年8月30日(火)、同学院で称号授与式と記念講演会が開催されました。

同学院は、中国宋朝元祐5年(1090年)に設立された「韓山書院」を起源に持つ歴史ある大学で、現在は12学部と1万2千人を超える学生を有する広東省東地域唯一の四年制師範大学です。愛媛大学とは平成21年9月に大学



間交流協定を締結し、学術交流及び定期的な短期留学や交換留学が活発に行われています。

細川副機構長は、庄東紅副学長から客員教授の称号を授与された後、記念講演を行い、参加した約150人の学生や教員は熱心に耳を傾けていました。

本学関係者が同学院の客員教授に就任するのは、昨年9月の清水史国際連携推進機構副機構長に次いで2人目です。



(5) 愛媛大学DanceAZ. とメディアサポーターズ映像部が中国・上海師範大学国際芸術祭で公演

日時：平成23年8月31日(水)

概要：上海師範大学で上海師範大学国際芸術祭が開催され、本学DanceAZ. とメディアサポーターズ映像部が参加し、ダンスと映像のコラボレーションによる公演を行いました。

上海師範大学国際芸術祭は2005年から隔年で開催されており、上海師範大学と友好関係にある海外の大学から芸術団体が参加し、延べ100回にわたって音楽、バレエ、



ダンス、声楽、絵画などの公演を行っています。2009年には、本学から軽音楽部と音楽研究会が出演してジャズを披露し、好評を博しました。今回も上海師範大学から出演依頼があり、DanceAZ. とメディアサポーターズ映像部が同大学において公演を行いました。

8月31日(水)14時から上海師範大学の東部礼堂で開催された公演には、DanceAZ.、メディアサポーターズ映像部、DanceAZ. 顧問の牛山真貴子教授、DanceAZ. のOGら総勢20



人が参加しました。公演に先だって、上海師範大学の張民選学長から、芸術は人の成長に不可欠なものであるという挨拶があり、上海師範大学の芸術に対する取組み姿勢を象徴しているかのようでした。



今回はDanceAZ.によるダンスとメディアサポーターズ映像部による映像作品を90分にわたって上演し、第1部「私たち-OUR'S」では、愛媛の街、人、愛媛を紹介する映像を組み込み、DanceAZ.によるヒップホップや和をテーマにした作品などバラエティに富んだ作品を披露しました。また、第2部「復興」の作品は今回の公演のために制作されたもので、東日本大震災を乗り越えて明日に向かおう

とする日本を表現するとともに、温かい支援をいただいた中国への感謝と敬意を表しました。

会場には上海師範大学の教職員・学生ら約300人が来場し、ダンスと映像による作品を満喫しました。本学は上海師範大学と本年3月に学術交流協定を締結しており、来年度からは交換留学の実施が予定されておりますが、今回の公演をきっかけに芸術分野での交流がますます活発化することが期待されます。



2-4 第8回留学生日本語スピーチコンテスト in 愛媛2011

日時：平成23年10月30日(日)

場所：南海放送本町会館

概要：愛媛県留学生等交流推進会議(議長：柳澤康信学長)が主催し、愛媛大学国際連携推進機構及び南海放送株式会社が企画・運営を行った「第8回留学生日本語スピーチコンテストin愛媛2011」が南海放送本町会館で開催されました。本学からは12人の留学生が参加し、ホウ・ヨウさん(「ホウ」は「龍」の中に「龍」, 「ヨウ」は「火」への右側上に「化」, その下に「十」)(中国・法文学部)が最優秀賞を、駱醒妹(ラク・セイマイ)さん(中国・法文学部)が南海放送賞を、KIJANUKUL ARREEROM(キジャーヌグン・アリロム)さん(タイ・教育学部)が特別賞を受賞しました。



今回の大会には県内の大学、短大、高専から、これまで最多の8か国35人が参加し、午前8時にスタートした予選を通過した12人が午後の本選で発表を行いました。本選の様子は南海放送ラジオと愛媛CATVで同時生放送されたほか、南海放送のホームページからWebで全世界にLIVE配信されました。

留学生達は日本での生活や文化の違い、日本で触れた暖かい人情などを題材に流ちょうな日本語で発表し、情感たっぷりのジェスチャーやユーモアに参加した約100人の聴衆は笑ったり感嘆したりのひとつときを過ごしました。

スピーチ終了後には、張卓(チョウ・タク)さん(教育学研究科修士課程1年)がオペラのアリアなどの歌唱を披露



(ピアノ伴奏：教育学研究科修士課程1年村田祐子さん)し、大きな拍手を浴びました。
今回のスピーチコンテストの入賞者は次の方々です。

- ・最優秀賞 愛媛大学 ホウ・ヨウ【中国】
- ・優秀賞 聖カタリナ大学 金 韓珠(キム・ハンジュ)【韓国】
- ・佳作 松山東雲女子大学 金 勝男(キン・ショウナン)【中国】
- ・佳作 今治明德短期大学 駱 笑月(ラク・ショウゲツ)【中国】
- ・南海放送賞 愛媛大学 駱 醒妹(ラク・セイマイ)【中国】
- ・特別賞 愛媛大学 KIJANUKUL ARREEROM(キジャーヌグン・アリロム)【タイ】
- ・特別賞 愛媛女子短期大学 彭 捷(ホウ・ショウ)【中国】

2-5 その他(国際交流関係)

(1) 国際連合大学私費留學生育英資金優秀者表彰式実施

日時：平成23年4月7日(木)

概要：学業成績及び国連大学育英資金の返済状況が優れた留學生に対し、表彰状及び報奨金を授与しました。

国際連合大学私費留學生育英資金貸与事業(United Nations University Financial Assistance Programme)とは、成績優秀な発展途上国の私費外国人留學生へ必要な資金を貸与する制度です。本学は国連大学の協力大学として、留學生に本制度による資金貸与を行っており、今回は貸与を受けている者のうち、12人が学業成績及び資金の返済状況が優秀であるとして表彰を受けました。

(2) 第1回海外安全講習会&留学支援制度説明会開催

日時：平成23年8月4日(木)

場所：法文学部 大会議室

概要：海外での安全確保やリスク管理に関する講習会と日本学生支援機構による留学支援制度に関する説明会を開催しました。



愛媛大学では、危機管理の一環として、海外留学や研修旅行における安全確保に向けた取組を行っています。平成23年8月4日(木)13時30分から16時30分まで、法文学部大会議室を会場に、第1部を愛媛大学国際連携促進事業の補助を受けて法文学部総合政策学科の主催で、また、第2部と第3部を国際連携推進機構の主催で開催しました。

説明会に先立って、国際連携推進機構の細川洋治副機構長から、海外勤務で遭遇した盗難事件などの話があり、

参加者は日本と外国の状況の違いを改めて認識しました。

■第1部 海外で安全かつ有意義に行動するには？

講師は、(株)日本旅行への契約添乗員派遣会社である(株)ジャッツ関西の武内 達雄(ぶない たつお)氏です。2006年国土交通省のツアーコンダクターオブザイヤーの初代グランプリを獲得した方で、数多い添乗経験から、海外で出会う危険と対応について、具体的な事例を紹介していただきました。

■第2部 海外渡航のリスク管理について





特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会事務局の上野 昭彦氏を講師に迎え、諸外国の犯罪の状況などについて詳細な事例を紹介いただくとともに、危機管理や危機対応、特に大学での危機管理のための保険制度についてお話しいただきました。

■第3部 日本学生支援機構の留学生支援制度等について

講師は、日本学生支援機構留学生事業部の秋保 聡氏です。今年度開始されたショートステイ、ショートビジット(SS/SV)について説明いただくとともに、これらの

プログラムを計画するに当たっての留意点などについて詳細な紹介をいただきました。

今回の説明会には、海外留学などを考えている学生及び留学プログラムの設計に当たる教職員など150人の参加がありました。現在、受入留学生数が300人を超え、それとほぼ同数の学生が留学などで海外を目指す本学にとって、重要な問題である危機管理と留学支援について、貴重な情報が得られる説明会となりました。

国際連携推進機構ではさらに充実した学生生活をサポートするため、今後もこのような企画に積極的に取り組んで参ります。



(3) 中学生の修学旅行グループが留学生と俳句を楽しむ

日時：平成23年10月12日(水)

概要：修学旅行で松山を訪れた大阪市立咲くやこの花中学校のみなさんが、留学生と共に「子規のまちにて俳句吟行体験」に取り組みました。修学旅行で松山を訪れた大阪市立咲くやこの花中学校の生徒達約80人の内、言語文化コースの20人と引率教員2人が来学し、留学生と共に俳句作りを楽しみました。生徒達は松山城総合事務所のテラスで本学留学生から出身国の紹介などを受けた後、愛



媛大学までの道を一緒に歩きながら思い浮かんだ俳句の英訳に取り組みました。本学国際連携推進機構の教室では英語俳句の清書と発表を行い、互いに感想を交換しながら優秀句を選句するなど、3時間余りにわたって交流しました。

俳句の本場松山で留学生と一緒に俳句作り挑戦したことは、生徒のみなさんの忘れられない思い出になることでしょう。

(4) 中華人民共和国駐大阪総領事館教育室から感謝状

日時：平成23年11月1日(火)

概要：平成23年10月9日(日)、愛媛県中国人留学生学友会及び愛媛県華僑華人連合会の主催により、本学ミューズガーデンで第2回中国祭りが開催されました。



中国祭りは昨年が続いて開催されたもので、中国人留学生や華僑の人たちによる伝統的な民族舞踊や楽器の演奏のほか、本場の中国料理を味わうことができる屋台も出店され、約400人が来場しました。

このほど贈呈された感謝状は、中国祭りにおける企画・運営などで国際連携推進機構が協力したことに対し、感謝の意が表されたものです。

(5) 韓国大学生訪日研修団と本学学生との交流会開催

日時：平成23年11月7日(月)

概要：大韓民国教育科学技術部国立国際教育院派遣の韓国人大学生30人と引率団長・通訳者の計33人が愛媛大学を訪問しました。

一行は、教育学部で行われている国際理解教育の授業に参加し、日本人学生から愛媛大学の紹介を受けた後、グループに分かれて日韓の様々なテーマについて話し合いました。楽しい昼食会の後は、愛大ミュージアムやえみかショップを見学し、最後にそれぞれのグループ毎に本日の交流成果について発表を行いました。

予定の5時間はあっという間に過ぎ、短い交流ではありましたが、終始笑顔の絶えない交流会で、今後はFacebookやe-mailを活用しての交流継続を約束し、一行は別れを惜しみながら松山を後にしました。



(6) 震災後も愛媛で頑張る留学生の生の声を掲載

概要：東日本大震災により多くの留学生が日本を離れたたり、日本への留学を取り止めたりしました。しかし、震災後も愛媛大学ではほとんどの留学生が今までどおり勉学に励んでいることを海外へ発信する必要があります。

そこで、これから留学を考えている外国人やそのご家族・関係者の方々に向けて、母国語で愛媛大学の状況を語って頂いた動画を掲載しました。

今後もしょこづつ、掲載者や言語を増やししながら、情報発信を行います。



(7) 外務省外交講座：「我が国の国際協力について」実施

日時：平成23年11月17日（木）

場所：グリーンホール

概要：外務省国際協力局審議官の大脇広樹氏を迎え、「我が国の国際協力について」と題して講演を開催しました。本学の学生、附属高校の生徒、教職員や一般の方々を含めた約300人の聴衆が熱心に話に聴き入りました。

大脇審議官からは、日本のODAによる世界への貢献、その結果が東日本大震災後に世界163か国もの国から援助の申し出に繋がったこと等の説明がありました。講演後の質疑応答では、生徒・学生等から多くの質問が出るなど盛会のうちに終了しました。



(8) 海外留学生安全対策協議会(JCSOS)危機管理講座開催

日時：平成23年12月7日（水）

場所：校友会館 サロン

概要：愛媛大学では、平成23年度より「海外留学生安全対策協議会(JCSOS)」に加入し、本学の学生を海外へ送り出す際の危機管理を行っています。

この度、JCSOS事務局の上野明彦氏をお招きし、危機管理に関して講演を行いました。講演会終了後は、学生を引率する教員の方々から多くの熱心な質問がありました。

本学は今後も学生や教職員を海外に安全に派遣するため、危機管理体制の構築を行ってまいります。



(9) 「日本語教師を目指す学生のためのOJTプログラム」第1回成果報告会開催

日時：平成23年12月28日(水)

概要：日本学生支援機構平成23年度留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）採択プログラム「日本語教師を目指す学生のためのOJTプログラム」により、トルコのチャナッカレ・オンセキズマルト大学から本学へ留学中の2人と、本学教育学部から同大学に派遣した学生1人が成果報告を行いました。



冒頭で、本プログラムを修了したトルコからの留学生IREM CEYHAN(イレム・ジェイハン)さんとBERNA CAKAL(ベルナ・チャカル)さんに清水史国際連携推進機構副機構長から修了証書が授与されました。

成果報告会では、まず、イレムさんが、続いてベルナさんが「日本における日本語教育法を学ぶためのインターンシップ」のテーマに沿って行った3か月間の研修成果を、そ

れぞれ発表しました。2人からは、本学で日本語教員養成科目の受講を通じて日本語力の向上と専門知識の習得に取り組んだほか、10月30日(日)に開催された留学生日本語スピーチコンテストにも出場するなど、積極的にチャンスを活用し、多くのものを吸収することができた旨の報告がありました。



続いて、本学教育学部から

チャナッカレ・オンセキズマルト大学に3か月間留学した益原知沙世さんから、「海外の日本語教育理解のためのインターンシップ」のテーマに従って、現地の日本語教員の助手をしながらトルコにおける日本語指導法を学んだこと、日本文化の紹介を行ったことなどについて報告があり、併せて、留学を通じて日本語の難しさや

日本や日本文化についての知識のなさを痛感したことなどが述べられました。

発表した3人からは、今回の留学で得られた相手国への理解や人とのつながりを、今後さらに深めたいという抱負が異口同音に語られ、短期間であっても外国での学生生活を体験することの意義を感じさせるものとなりました。

本プログラムでは、3月に15日間のトルコへの派遣を計画しており、帰国後第2回の報告会を開催する予定です。



(10) 留学生友好の森づくり植樹を実施

日時：平成24年2月24日(金)

概要：国際連携推進機構は石手川ダム水源地域ビジョン推進委員会と共催して、石手川ダムの上流の福見川町で、ヤマザクラの苗木100本を植樹しました。

当日の参加者は留学生20人と日浦小中学校の児童、生徒などを合わせて90数人です。この植樹活動は、松山市民の水がめである石手川ダムの水源涵養林の保全活動であると同時に、留学生と小中学生にとって国際交流の場であり、環境保護の大切さを学ぶ場でもあります。日浦小学校の体育館では、児童による伊予万歳と日浦太鼓の歓迎を受け、留学生にとって日本文化の一端に触れる良い機会にもなりました。



(11) 国際連合大学私費留學生育英資金優秀者表彰式を実施

日時：平成24年3月16日(金)

概要：国際連合大学私費留學生育英資金貸与事業(United Nations University Financial Assistance Programme)とは、成績優秀な発展途上国の私費外国人留學生へ必要な資金を

貸与する制度です。

愛媛大学は国連大学の協力大学として、留学生に本制度による資金貸与を行っており、今回は貸与を受けている者のうち、12人が学業成績及び資金の返済状況が優秀であるとして矢田部龍一国際連携推進機構長から表彰を受けました。



3 短期海外研修プログラム

3-1 短期海外研修プログラム（派遣）

（1）韓国文化研修 2011

日時：2011年8月17日～8月24日

場所：韓国・韓瑞大学校

概要：「韓国文化研修 2011」（国際教育支援センター・法文学部人文学科）は異文化理解のいわば「入門編」にあたります。本年度は総合政策学科学生4名、人文学科生11名の計15名が参加し、引率教員として池貞姫・法文学部准教授が同行しました。

2004年度に始まった同研修は、本学における異文化理解・国際交流の裾野を広げることを最優先と考え、海外経験がない学生でも安心して参加できるように、また短期間かつ低予算でできるだけ多くの知的刺激が得られるよう、さまざまな工夫をこらしています。韓国民俗村・独立記念館・ソウル市内など、韓国社会について概観できるよう見学先を選定しているのもその一つです。一方、韓国語能力については、あえて不問としています。

本研修最大の特徴に、「体験と対話」の重視、とくに「対話」の機会をできる限り多く組み込んでいる点が挙げられます。本学協定校である韓瑞大学校のサポートを受け、研修期間中は韓国側の学生パートナーと4、5名の小グループを組んで一緒に過ごします。2010年度からは韓国側パートナーを含む参加者全員が、全日程、同じ宿舎に泊まって過ごす「日韓合宿」形式で実施しており、7泊8日の研修期間を一つ屋根の下で過ごすという経験は、以前にもまして濃密な心のつながりを生み出しています。

韓国文化研修は2009年度から「海外文化交流実践」（法文学部人文学科）として単位認定が受けられるようになりました。これに伴い、従来の「体験と対話」の基本理念を守りつつも、今後、研修プログラムのより一層の充実を図っていきたいと考えています。

（2）短期韓国語・韓国文化研修

日時：2011年8月08日～8月27日

場所：韓国・蔚山大学校

概要：国際連携推進機構では2004年度から「韓国文化研修」（国際教育支援センター・法文学部共催）を実施してきました。これは「体験と対話」を重視した1週間の入門的プログラムで、毎年、参加学生から高い評価を受けてきました。一方で、より長期の研修・留学を志す学生や語学研修を目的とする学生に対しては6ヶ月～1年間の交換留学プログラムしか提供できる選択肢がなく、経済的負担や留学による卒業予定時期の遅れなど、学生にとってはかなりの覚悟が要求されるものでした。

そこで両者の間隙を埋めるべく、2009年度から実施されているのが3週間の研修プログラムである「短期韓国語・韓国文化研修」です。主催は蔚山大学校（本学協定校）ですが、本学学生の参加にあたっては国際教育支援センターが窓口となり、各種手続き・事前研修等を実施しています。また蔚山大の好意により1名分の受講料免除枠が与えられており、推薦学生の選抜等も実施し、最終的には推薦学生1名および私費参加学生4名の、計5名が研修に参加しました。

2011年度の日程は08/08～08/27の約3週間で、レベル別編成による韓国語学習のほか、伝統工芸品作りやサムルノリ・テコンドー体験、慶州見学等、各種の文化体験が加わった、充実した研修内容となっています。

この研修プログラムは2010年度より「海外語学実践演習」(法文学部人文学科)への履修登録が可能となっています。他学部・他学科生も自由聴講科目として履修登録が可能であり、これにより、参加学生が研修で得た成果を履修単位として反映させることが制度上可能となりました。大変喜ばしく思っています。

蔚山大学校と本学は2010年7月に学術交流協定(全学協定)を締結しました。今後、学生交流のみならず研究交流等、様々な分野での交流が活発化していくことが期待されます。

(3) 日本語教師を目指す学生のためのOJTプログラム(トルコ)

日時：(平成23年10月～12月：91日間/平成24年3月上旬：15日間)

派遣大学：チャナッカレ・オンセキズマルト大学

概要：愛媛大学では、日本語教育に積極的に取り組んでおり、日本語教師養成のコースを法文学部と教育学部の2学部で開講しています。一方、協定校であるチャナッカレ・オンセキズマルト大学(トルコ)の日本語教育学科でも日本語教師養成を行っており多くの優秀な教員を輩出しています。両大学では、平成22年度にその共通点を生かした交流セミナーも行い、関係を強化しています。本プログラムは、その関係をさらに発展させるべく、日本語教師養成を軸とした相互交流を行うものです。具体的には、海外の日本語教育理解のためのインターンシップや日本語教員の助手をしながら、トルコにおける日本語指導法を学ぶとともに、日本文化紹介を行いました。

日本語教師を目指す学生が、本プログラムを通して、日本語教育を行う国によって異なる指導法について理解を深めることを目指し、トルコの日本語教育事情やそれに関わる文化背景について説明できるようになりました。



3-2 短期海外研修プログラム(受入)

(1) 愛媛大学 愛アイプログラム「じっくり日本研修」(蔚山大学校研修団) 開講式実施

日時：平成23年5月9日(月)

会場：校友会館 サロン

概要：韓国蔚山大学校からの留学生20人を迎え、愛媛大学 愛アイプログラム「じっくり日本研修」の開講式を開催しました。

開講式は、柳澤康信学長の挨拶に続き、蔚山(うるさん)大学校 人文大学日本語日本学科 魯成煥教授及び学生代表が挨拶を述べ、一人一人自己紹介を行いました。

一行は6月までの約1ヶ月間、日本語を学びながら日本文化研修として松山城、二の丸庭園等の見学や国立大洲青少年交流の家でのカヌー体験を行う予定です。

今後さらに短期受入れプログラムを推進していく予定で、本プログラムを初段階と位置づけ、一層の内容充実を図って参ります。



(2) 愛アイプログラム「インターンシップから学ぶ日系企業文化・風土」(韓山師範学院)

日時：平成24年3月5日(月)～19日(月)

概要：中国・広東省の韓山師範学院の学生18人が「ビジネス日本語」の授業と「インターンシップ」研修に取り組みました。

このプログラムは、愛媛大学が学術交流協定締結校と共同で国際的人材の育成を目指そうとする取組みの一つであり、多様な学生の受け入れの機会を提供し、学生受け入れモデルの一つとなることから、文部科学省が実施する留学生交流支援制度(ショートステイ)に採択されています。

受講生は、韓山師範学院において一定期間の準備教育を受けた後、3月5日(月)から2週間、本学で「ビジネス日本語」、「企業文化理解」など合計48時間の授業を受講しました。その過程では日本企業の見学やインターンシップ、さらに日本文化体験(生け花、俳句)などを行い、最終課題として、本プログラムでの学習成果を報告会で発表しました。

3月18日(日)に開催した修了式では、矢田部龍一理事・副学長(国際連携推進機構長)が修了生一人一人に修了証書を手渡し、プログラムで経験したことを活かして日本企業への就職を果たしてほしいとはなむけの言葉を贈りました。

また、韓山師範学院林倫倫学長からは、帰国後、研修の成果を皆で分かち合ってもらいたいこと、プログラムがずっと継続し、愛媛大学との連携がさらに深まることを希望するとの挨拶があり



ました。続いて修了生がプログラムを通じて得た成果について、3人ずつのグループでプレゼンテーションを行いました。

韓山師範学院と本学は平成21年に学術交流協定を締結して以来、活発な交流が続いており、愛アイプログラムはさらに内容を充実させて来年度も実施する予定です。

4 留学生各種プログラム

(1) 留学生ホームステイを北宇和郡で実施

日時：平成23年6月17日(金)～6月19日(日)

場所：北宇和郡松野町・鬼北町

概要：愛媛大学留学生3人(タイ人)が、ホームステイを体験しました。

このホームステイは、地域における相互交流の推進と、愛媛をより深く留学生に知ってもらうことを目的に、国際教育支援センターが毎年実施しているものです。

また、留学生と地域の方や地域社会との交流をより強化するため、ホームステイ中には、地元の学校訪問も行っています。

まず、6月17日(金)に松野町立松野西小学校と愛媛県立北宇和高等学校を訪問しました。留



学生は、パワーポイントを使ってタイについて日本語で紹介し、実際にタイの民族舞踊を見せ一緒に踊った後で、小学生からのいろいろな質問に答えていました。また、小学生からは、松野西小学校とその校歌の紹介がありました。その後、留学生たちは給食や掃除にも参加し、自分たちの母国とは異なる学校の形態に驚いていました。

北宇和高校では、普通科1年生の「総合的な学習の時間」に参加しました。ここでも、パワーポイントでのタイの紹介、タイの民族舞踊の実演指導を行った後、高校生からのタイの高校生活等に関する様々な質問に答えていました。

学校訪問終了後、松野町山村開発町民センターでホストファミリーと対面したときは、緊張した面持ちで日本語で挨拶をしていました。しかし、2日後の松山に帰るころには、留学生全員がホストファミリーといつまでも日本語で話し続け、「日本の家族」との別れを惜しんでいました。ホームステイ終了後の日本語の授業では、初めて日本語でお礼状を書き、早速ホストファミリーへ送りました。

このような試みは、留学生たちの日本語学習のモチベーションを高めるだけでなく、地域の人々の留学生ならびに愛媛大学への関心を高める良い機会でもあります。国際教育支援センターでは、今後も定期的にこのような試みを続けていきたいと考えています。

(2) 留学生ホームステイを新居浜市で実施

日時：平成24年1月13日(金)～15日(日)

場所：新居浜市

概要：愛媛大学の留学生4人(ブラジル人1人, 中国人3人)が, 新居浜市でホームステイを体験しました。

このホームステイは、地域における相互交流の推進と、愛媛をより深く留学生に知ってもらうことを目的に、国際教育支援センターが毎学期実施しているものです。

また、留学生と地域の方や地域社会との交流をより強化するため、ホームステイ中には、地元の学校訪問も行っています。

まず、1月13日(金)に新居浜市立惣開小学校と愛媛県立新居浜東高等学校を訪問しました。惣開小学校では、学校見学の後で、小学生と一緒に豆腐作りを体験したり、体育館でゲームを行ったりしました。その後、留学生たちは給食や昼休み中の運動・掃除にも参加し、自分たちの母国とは異なる学校の形態に驚いていました。

新居浜東高等学校では、4人は2クラスに分かれて3年生と交流しました。授業開始のゲームで互いに親しくなった後、自分の国の文化を日本語や英語で紹介し合い、お互いの国への理解を深めていました。



学校訪問終了後、新居浜市役所でホストファミリーと対面したときは、緊張した様子で日本語の挨拶をしていました。しかし、2日後の松山に帰るころには、留学生全員がホストファミリーといつまでも日本語で話し続け、「日本の家族」との別れを惜しんでいました。ホームステイ終了後の日本語の授業では、初めて日本語でお礼状を書き、早速ホストファミリーへ送りました。

このような試みは、留学生たちの日本語学習のモチベーションを高めるだけでなく、地域の人々の留学生ならびに愛媛大学への関心を高める良い機会でもあります。国際教育支援センターでは、今後も定期的にこのような試みを続けていきたいと考えています。

(3) 愛媛大学学生国際交流協力事業会 (AINECS) 理事会・新入留学生歓迎会開催

日時：平成23年7月29日（金）

場所：校友会館 サロン・大学会館

概要：愛媛大学学生国際交流協力事業会 (AINECS) の理事会と新入留学生歓迎会を開催しました。

16時30分から校友会館2階サロンで開催したAINECS理事会では、冒頭で柳澤康信学長が学外理事として運営に関わってくださる皆様に謝辞を述べ、併せて大学及び事業会についての現況説明を行いました。次いで「平成22年度の事業及び決算報告」、「平成23年度事業計画案及び予算案の審議」を提案し、共に了承されました。

17時45分からは、大学会館1階ホールで新入留学生歓迎会を開催し、新入留学生19人と、彼らを迎える学内外からの出席者約130人が参集しました。

今回の司会は、法文学部のウエイエイさん（中国）と、工学部のバルラスラヒールカンさん（パキスタン）が、涼しげな浴衣姿で務めました。歓迎会では、柳澤学長の挨拶に続き、教育学部のキジャーヌグンアリロムさん（タイ）が、新入留学生を代表して挨拶を述べ、松山北ロータリークラブの眞鍋清AINECS理事に乾杯のご発声をお願いして賑やかに歓迎パーティが始まりました。

アトラクションでは、松山東雲女子大学の葛遙さんによる琵琶の演奏とインドネシアからの留学生の子ども達アイシャヌルフィットリアさんとラシダヌルシファさんによる踊りが披露されました。どちらも異国情緒にあふれるもので、参加者から大きな拍手を浴びました。



(4) 平成23年度前学期日本語予備教育コース修了式開催

日時：平成23年8月1日（月）

概要：愛大ミュージズにおいて、平成23年度前学期日本語予備教育コースの修了式を実施しました。平成23年度4月入学の本コース修了生3人は、清水史国際教育支援センター長から修了証書を授与された後、それぞれの学習成果発表を行いました。

式には、6月にプログラムの一環で行われたホームステイでお世話になったホストファミリーの方々から北宇和郡から応援に駆けつけ、修了生は「こちらは私のお父さんとお母さんです」と、はにかんだ様子で参加者に向かって日本の家族を紹介しました。

成果発表では、修了生がタイと日本の挨拶の違いや、ホームステイ中の生活、日本人との実際の交流などをテーマにスピーチを行い、国際教育支援センターの日本語教員やホストファミリーの方々、J-support（留学生の日本語学習をサポートするボランティア）やチューターの学生、他の留学生が見守る中、緊張した面持ちでスピーチを行った修了生にはあたたかい拍手が送られました。

清水センター長と修了生記念撮影後には、久しぶりに再会したホストファミリーと愛大ミュージズの見学に行くなど、式が終わっても和やかな交流が続いていました。

平成23年度前学期日本語予備教育コース修了生

教育学部 KIJANUKUL ARREEROM タイ

教育学部 TAWEDACH NUTTIDA タイ

法文学部 SUKHUMPINIJ PORNPAN タイ

(5) 平成23年度外国人留学生実地見学旅行実施

日時：平成23年12月17日(土)～18日(日)

概要：外国人留学生32人のお互いの親睦及び日本文化の体験を目的として、広島(原爆資料館・宮島・スキー場)への見学旅行を実施しました。



留学生達は、初日にバスでしまなみ海道を渡り、広島風お好み焼きに舌鼓を打った後、原爆資料館・原爆ドームを訪れ、原爆の恐ろしさと平和の大切さを学びました。次に世界遺産の宮島・厳島神社を訪れ、その荘厳さに圧倒されていました。

翌日は、スキー・インストラクターからスキーの手ほどきを受け、ほとんどの留学生が生まれて初めてのスキーを楽しみました。生ま

れて初めて雪景色を見た留学生も多く、時間まで熱心に練習する姿が見られました。

(6) 平成23年度アイネックス外国人留学生送別パーティ開催

日時：平成24年2月24日(金)

場所：大学会館

概要：大学会館1階で開催された平成23年度アイネックス外国人留学生送別パーティには、家族を含む留学生86人と、学内外からの参加者67人が参加しました。司会を務めたのは、法文学部一回生の具冠成(グカンセイ)さん(中国)と工学部一回生のAisyah Binti Zabri(アイシャビンティザブリ)さん(マレーシア)、



留学生代表挨拶は、理工学研究科のMYRIZKI SANDHI YUDHA(マイリズキサンディユダ)さん(インドネシア)が行いました。

冒頭、柳澤康信学長の挨拶に続き、長年に亘り留学生をご支援くださっているCAS(キャス)の尾崎主幸さんに、学長から感謝状が贈呈されました。その後、愛媛大学校友会の竹本孝AINECS理事の乾杯のご発声で賑やかにパーティが始まりました。

アトラクションでは、法文学部2回生の孫洋(ソンヨウ)さん(中国)がギターを演奏して会場を沸かせ、次に農学部研究員のエルニジョハンさんと、サリアジェンアルムさん(インドネシア)が美しい衣装でインドネシア伝統の踊りを踊り、来場者を魅了しました。

今後とも、本事業会は、愛媛大学の外国人留学生を支援し、その機会を通じて、地域と世界を結ぶ活動を積極的に推進して参りますので、皆様の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

(7) 平成23年度後学期日本語予備教育コース修了式を実施

日時：平成24年2月24日(金)

概要：修了式では、平成23年度10月入学の本コース修了生4人が、清水史国際教育支援センター長から修了証書を授与された後、それぞれの学習成果発表を行いました。

式には、国際教育支援センターの日本語教員のほか、J-support(留学生の日本語学習をサポートするボランティア)やチューターの学生、また他コースの留学生が、修了生の発表を聞こうと参加しました。大勢の参加者を前にした修了生は、緊張しながらも、自国のスポーツや武術、文化について堂々とスピーチを行い、半年間学んだ成果を参加者に披露しました。修了

生は来期から、学んだ日本語を使って専門の勉強に励んでいきます。

平成23年度後学期日本語予備教育コース修了生

教育学部CINTIA RODRIGUES CRUZ ブラジル

法文学部 于濱寛中国

工学部韓文亮中国

法文学研究科 張明 中国

5 グローバル人材育成プログラム

(1) 平成23年度「世界と協働できるグローバル人材育成プログラム」開講式挙

日時：平成23年4月21日（木）

概要：愛媛大学では、経済産業省の委託を受け、平成19年度から「アジア人財資金構想」高度実践留学生育成事業に取り組み、日本企業への就職を目指す留学生の就職支援を行ってきました。平成22年度でこの事業が終了したため、今年度から自立化のための「世界と協働できるグローバル人材育成プログラム」をスタートさせました。

このプログラムでは、日本企業への就職を希望している本学の留学生に対し、ビジネス日本語教育、日本ビジネス教育、インターンシップ、就職指導など様々な支援を行います。

夏には、2週間程度のインターンシップに参加し、その後、グローバルに展開している県内外の企業への就職に向けて本格的な就職活動を開始します。開講式には、プログラム第5期生10人が出席し、2年間にわたるプログラムの概要や、既に日本企業で活躍している卒業生の様子を聞き、就職活動への意欲を高めました。

(2) 平成23年度インターンシップ報告会を開催

日時：平成23年10月20日（木）

場所：総合情報メディアセンターメディアホール

概要：愛媛大学独自の留学生就職支援プログラムである「世界と協働できるグローバル人材育成プログラム」受講生によるインターンシップ報告会を開催し、約80人が参加しました。

今回は第5期生の中の5人が、夏に県内の企業で実施した研修の成果を報告しました。スクリーンに映し出されたスライドの前で報告する学生の表情は、真剣そのもので、教室を離れ、企業という実践の場で学び取った成果—コミュニケーションの大切さや、従業員の満足度が顧客へのサービス向上につながることなどが生き生きと語られました。それぞれの発表に対し、インターンシップでご指導いただいた企業の方から評価や激励の言葉をいただいたほか、会場からの質問が相次ぐなど、熱気にあふれた報告会となりました。

(3) 「アジア人財資金構想」及び「世界と協働できるグローバル人材育成プログラム」平成23年度修了式実施

日時：平成24年2月23日（木）

概要：日本企業への就職を目指す留学生のための就職支援プログラムである、経済産業省「アジア人財資金構想」及び本学独自の「世界と協働できるグローバル人材育成プログラム」の修了生10人が柳澤康信学長から修了証書を受け取りました。

今年度は、中国、韓国、台湾及びインドネシアからの留学生10人が2年間のプログラムを終え、日本企業への就職を果たしました。修了生は、修了



証書授与の後、これからの夢、感謝の気持ちなどを一人ひとり発表しました。続いて、柳澤学長が挨拶に立ち、愛媛大学では留学生の受け入れや日本人学生の海外派遣など、国際化推進に力点を置いて取り組んでいること、留学生に対して地方大学ならではのきめ細やかな就職支援を実現していることなどを述べました。

修了式には、インターンシップの受け入れなどでご協力いただいた企業の方を始め、指導に当たった客員教授やキャリアコンサルタント、また就職活動中の第5期生など35人が参加し、修了生の門出を見送りました。

6 第2回中国祭り与中国少数民族伝統衣装展開催

日時：平成23年10月9日(日)

概要：愛大ミュージックガーデンにおいて第2回中国祭り与中国少数民族伝統衣装展の開展式を開催し、約400人が来場中国祭りは、愛媛県中国人留学生学友会及び愛媛県華僑華人連合会の主催により、昨年に続き愛大ミュージックガーデンで開催されました。

好天に恵まれた会場では少数民族伝統衣装展の展示品提供元である中国中央民族大学民族博物館から宋才発館長が来学し、愛媛大学の柳澤康信学長と共にテープカットを行って賑やかに幕を開けました。



中国祭りでは、中国人留学生や華僑の人たちによる伝統的な民族舞踊や楽器の演奏などが披露されたほか、中華料理の屋台も出展し、中国の文化、風習を生で体験する機会となりました。一方、中国祭りに合わせて開展式を行った中国少数民族伝統衣装展は、本学の協定校である中央民族大学(中国・北京)の民族博物館から資料の提供を受けて実現したものです。

中国には人口の92%を占める漢民族以外に55の少数民族が住んでおり、民族衣装の素材や精緻な刺繍などに少数民族それぞれの文化が映し出されています。今回は23民族の衣装を展示していますが、このような展示が日本国内で行われる機会は非常に少なく、中国の少数民族文化に触れる貴重な機会です。



また、展示した民族衣装はいずれも貴重なものばかりで展示に当たっても専門的な知識が必要であることから、中央民族大学民族服飾研究所の祁春英所長が来学し、展示についての助言をいただきました。

7 研究活動（国際連携推進機構専任教員のみ）

(1) 細川洋治

【著書・論文・研究発表】

細川洋治：「フクシマ危機」後の原子力開発の動向，土木学会誌，第96巻第9号，pp. 38-41，2011.9

【講演・シンポジウム】

細川洋治：福島第一原子力発電所事故後の原子力開発の動向と放射線防護の基礎知識（講演），愛媛大学防災情報研究センター・西予市連携防災講演会－防災キャラバン・津波防災を考える in 西予市－，西予市三瓶文化会館，2011.11

細川洋治:福島第一原子力発電所事故後の原子力開発の動向と放射線防護の基礎知識(講演), 社団法人宇和島法人会愛南支部講演会, ホテルサンパール, 2011.9

細川洋治:日本から見た中国の科学技術の現状について(講演), 韓山師範大学, 2011.8

細川洋治:福島第一原子力発電所事故の影響と課題, 松山を考える会第19回定例会, いよてつ会館, 2011.8

細川洋治:福島第一原子力発電所事故の影響について, 第2回愛媛大学学術フォーラム, 総合情報メディアセンター, 2011.7

細川洋治:フクシマ後のエネルギー政策の動向と展望, 伊予市のまちづくりを考えるワークショップ, ウェルピア伊予, 2011.7

(2) 遅澤 克也

【著書・論文・研究発表】

1. 遅澤克也「夢を語り合い, その夢の実現に挑戦することー地域研究は格闘技だー」『ゼミナール農林水産業が未来をひらく』大隈満 等 編著, 196-212 頁, 農山漁村文化協会, 2011 年.
2. Diah Yumeina R. Datu and Katsuya Osozawa, The Possibility of Sago Starch Marketing in Japan form Sago Producing Areas in the Eastern Part of Indonesia, *Proceedings of The 10th International Sago Symposium*, pp.70-71. October 2011.

(3) Ruth Vergin

【著書・論文・研究発表】

Ruth Vergin

'A first step in building an international curriculum: Using a content-based class in English as training for instructors and practice for students' at the 7th QS-APPLE Conference, Manila, The Philippines, 2011年11日17日

【講演・シンポジウム】

人権・同和教育講演会(講師) 今治精華高等学校 23年9月30日

第1回松山学校生活支援員(日本語)研修会(講師) 23年7月13日

第6回伊予地区精神障害者地域家族会連行会総会:「障害者の差別, 偏見をなくするには」 23年5月31日

(4) 高橋 志野

【著書・論文・研究発表】

高橋志野・向井留実子(2011)「中級漢字クラスの日本人サポーターによる支援行動の特徴ーサポーター用マニュアル作成に向けてー」『跨文化交际中的教育研究』vol. 2. 540-541.

(5) 村上和弘

【著書・論文・研究発表】

村上和弘:「近現代対馬における「越境」の記憶とその利用」, 日本文化人類学会第45回研究大会, 2011.06

村上和弘:「変則貿易について」, 村上和弘:「変則貿易の時代」, 第3回「越境科研」研究会(研究課題名:日本「周辺」地域にみる国境変動とアイデンティティ:韓国・台湾との越境をめぐって), 2011.12

村上和弘:「変則貿易の時代」, 第3回「越境科研」研究会(研究課題名:日本「周辺」地域にみる国境変動とアイデンティティ:韓国・台湾との越境をめぐって), 2012.02

(6) 小林 修

【著書・論文・研究発表】

小林修 (2011) 視覚障害者と協働して展開する森林 ESD モデルの開発. 森林科学, Vol. 63, P. 34-38.

小林修 (2011) 共通教育で ESD 指導者を育てる. 高等教育と ESD—持続可能な社会のための高等教育—第 2 章 3 節, P. 79-96

小林修・寺下太郎・山本信次・大石康彦・山本清龍・井倉洋二 (2011) 視覚障害者と協働して展開する森林 ESD モデルの開発. 全国視覚障害理科教育研究会, No. 30, 16-24.

小林修 (2011) 視覚障害者と協働して行う森林 ESD が当事者に与える効果. 第 122 回日本林学会大会学術講演集.

【講演・シンポジウム】

小林修: 「地球が温暖になるカラクリと持続可能な社会づくりに果たす私たちの役割」, 上浮穴高校 (講演), 2011年5月.

小林修: 「アジア・アフリカ自然共生型環境倫理が持続可能な社会づくりにはたす役割～環境教育と国際理解教育の協調～」, 愛媛県国際教育研究会 (講演), 2011年5月.

小林修: 「森を使って森を守る」, 湯山中学校 (講演), 2011年6月.

小林修: 「自分が変わると世界も変わる～持続不可能な社会と持続可能にするためにできること～」, 弓削高校 (講演), 2011年7月.

小林修: 「森を使って森を守る!～私たちの持続可能なくらしと森林「切りたくても切れない縁～」」, 西条西中学校 (講演), 2011年7月.

小林修: 「年輪のはなし」, 東温市エコキッズフェスティバル (講演), 2011年10月.

小林修: 「持続可能な社会づくりをめざして!世界とつながる&地域と関わる」, 三島高校 (講演), 2011年10月.

小林修: 「森を使って森を守る!～私たちの持続可能なくらしと森林“切りたくても切れない縁”～」」, 西条北中学校 (講演), 2011年11月.

8 管理運営

管理運営委員会付議事項

○第 1 回 平成 23 年 4 月 25 日(月)

留学相談室の設置に伴う規程の改正等について

国際交流会館の居室清掃料金等の徴収に関する申合せについて

愛媛大学と四川大学との学生交流に関する覚書の一部変更について

入管からの指摘事項について

海外留学・研修体験ポスター発表会について

アイネックス総会及び留学生歓送迎会の開催について

新入留学生オリエンテーションについて

留学生担当窓口職員の外国語対応について

海外研修報告書「青い地球交流記」の発行について

教員の人事について

○第 2 回 平成 23 年 5 月 23 日(月)

愛媛大学短期交流学生の受入れに関する要項について

平成 23 年度前期分留学生経費及びチューター経費の配分について

2011～2012 年度に有効期間満了を迎える国際学術交流協定について
愛媛大学とプルバンチャル大学との学術交流実績について
高雄大学出張報告について
愛媛大学法文学部と連合王国 INTO マンチェスターとの学術交流に関する協定を更新した
ことについて
愛媛大学工学部とハサヌディン大学工学部との学術交流に関する覚書を締結したことにつ
いて
熱帯農業に関する SUIJI コンソーシアムに関する協定を締結したことについて
愛媛大学と義守大学との学術交流に関する協定を更新したことについて
愛媛大学とベトナム国立大学ハノイ校との学術交流に関する協定を締結したことについて
愛媛大学と上海師範大学との学術交流に関する協定を締結したことについて
愛媛大学と高雄大学との学術交流に関する協定を締結したことについて
留学体験ポスター発表会について

○持ち回り 平成 23 年 5 月 27 日（金）

愛媛大学と国立高雄第一科技大学との学術交流に関する協定の締結について

○第 3 回 平成 23 年 6 月 27 日（月）

愛媛大学短期交流学生の受入れに関する要項について
2011～2012 年度に有効期間満了を迎える国際学術交流協定について
御幸学生宿舎の入居に関する申合せの一部改正（案）について
愛媛大学と四川大学との学術交流に関する協定を締結したことについて
愛媛大学とトリブバン大学工学校との学術交流に関する協定を更新したことについて
愛媛大学とネパール工科大学との学術交流に関する協定を更新したことについて
大学推薦による国費外国人留学生の選考結果について
日本学生支援機構平成 23 年度留学生交流支援制度（短期受入れ）の選考結果について
日本学生支援機構平成 23 年度留学生交流支援制度（短期派遣）の選考結果について
日本学生支援機構平成 23 年度日韓大学生交流事業（21 世紀東アジア青少年大交流計画奨
学金（韓国）の選考結果について
「熱帯農業に関する SUIJI（Six University Initiative Japan Indonesia）コンソーシア
ム 2011 愛媛大会」の開催について
平成 22 年度国際連携推進機構決算及び平成 23 年度予算について
外国人留学生の履修状況について
JCSOS（NPO 法人 海外留学生安全対策協議会）への加入について
第 8 回留学生日本語スピーチコンテスト in 愛媛 2011 の開催について

○第 4 回 平成 23 年 7 月 25 日（月）

愛媛大学短期交流学生の受入れに関する要項について
国連アカデミック・インパクトへの参加について
愛媛大学と国立高雄第一科技大学との学術交流に関する協定を締結したことについて
愛媛大学とポカラ大学との学術交流に関する協定を更新したことについて
愛媛大学とカトマンズ大学との学術交流に関する協定を更新したことについて
平成 22 年度国際連携推進機構決算及び平成 23 年度予算について
国際連携支援員の委嘱について
AINECS 理事会への出席依頼

○第5回 平成23年8月22日(月)

ショートステイ(SS)により受け入れる学生への単位付与について

学生宿舎への入居者選考について

愛媛大学沿岸環境科学研究センターとベトナム国立大学ハノイ校ハノイ科学大学環境技術開発研究センターとの学術交流に関する協定の更新について

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センターとハカス国立言語・文学・歴史研究所との学術交流に関する協定を締結したことについて

国際連携支援員の委嘱について

教員の人事について

後期定例開催日について

○持ち回り 平成23年9月26日(月)

愛媛大学短期交流学生の受入れに関する要項について

国際フォーラム「ネパールの開発と観光年2011の推進をめざして」の開催について

新入留学生オリエンテーションの実施について

外国派遣研究員候補者の推薦について

○持ち回り 平成23年10月13日(木)

外国の大学等からの交流の申入れについて

○第6回 平成23年11月10日(木)

愛媛大学教育学部とルイジアナ大学モンロー校との学術交流に関する協定の締結について

愛媛大学理学部とルンド大学理学部との学術交流に関する協定の締結について

留学生経費の配分について

平成24年度非常勤講師採用計画について

愛媛大学沿岸環境科学研究センターとベトナム国立大学ハノイ校ハノイ科学大学環境技術開発研究センターとの学術交流に関する協定の締結したことについて

国際連携推進機構所属教員の教授会所属について

台湾高雄第一科技大学でのFD講演について

国際教育展及び日本留学フェア(北京, 上海)参加について

外交講座の開催について

平成23年度留学生交流支援制度(SS/SV)(二次募集)の選考結果及び平成24年度募集について

留学生実地見学旅行について

平成23年度農学部国際ワークショップの開催について

中国大学関係者の調査について

○第7回 平成23年12月8日(木)

平成24年度国内採用による国費外国人留学生候補者の推薦について

国費外国人留学生の奨学金支給期間延長申請に係る候補者の推薦について

愛媛大学理学部とルンド大学理学部との学術交流に関する協定の締結について

法文学部人文学科と国際連携推進機構の懇談会について

留学生の就学状況について

資格外活動の適正な運用について

国連アカデミック・インパクトへの参加について
客員教授等の採用について
アカデミックアドバイザーの委嘱について

○第8回 平成24年1月12日(木)

愛媛大学とフリンダース大学との学術交流に関する協定の終了について
愛媛大学とゴロンタロ大学との学術交流に関する協定の更新について
留学生の就学状況について
中国国家重点大学への訪問について

○第9回 平成24年2月9日(木)

愛媛大学と桂林理工大学との学術交流に関する協定の締結について
愛媛大学とハサヌディン大学との学術交流に関する協定の更新について
平成24年度大学推薦による国費外国人留学生(一般枠)の推薦について
愛媛大学外国派遣研究員促進セミナーの開催について
平成23年度愛媛大学国際連携促進シンポジウムの開催について
留学生の就学状況について
来年度の委員及び開催日程について
在学期間満了者のフォローについて
AINECS 送別会への参加について

○第10回 平成24年3月8日(木)

愛媛大学とガ ज्याマダ大学との学術交流に関する協定の更新について
愛媛大学とブラパ大学との学術交流に関する協定の更新について
愛媛大学法文学部とオーストラリア連邦アデレード集中英語教育機関 (IELI) との学術交流に関する協定の締結について
愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センターと河南省文物考古研究所との学術交流に関する協定の締結について
愛媛大学と天津外国語大学との学術交流に関する協定の締結について
愛媛大学と吉林大学との学術交流に関する協定の締結について
南スラウェシ州政府、愛媛大学及びハサヌディン大学の三者の連携による人材育成のためのガイドラインの締結について
国際交流会館の居室清掃料金及び管理共益費の徴収に関する申合せの一部改正について
平成24年4月の御幸学生宿舎及び国際交流会館入居希望者の選考について
平成24年度校友会大学支援事業要求書(案)及び平成23年度報告書について
大学推薦による国費外国人留学生候補者(特別枠)の推薦について
学生の海外渡航手続について
平成24年度国内採用による国費外国人留学生(研究留学生)の選考結果について
新入留学生オリエンテーションの実施について
客員教授の採用について

○持ち回り 平成24年3月16日(金)

愛媛大学国際連携推進機構の教員選考基準に関する申合せについて

9 人事異動

所 属	職 名	氏 名	異動日付	異動内容	異動前の職
国際教育支援センター	准教授	向井留美子	23. 8. 31	退職	
〃	〃	伊月 知子	23. 10. 1	採用	今治明德短期大学 ライフデザイン学 科准教授